



どんな大学生が 被服支出が多いのか？

中央大学経済学部 古川ゼミ

塚田 翔 康本 周作 孫 賑浩 芳賀 可奈子

池田 栞 大堀 陽和 古川 奨

研究の背景

世の中にはファッションに多く支出する人もいれば、ほとんど使わない人もいる。

最近の研究（北浦 2023）で、国内の被服消費は縮小しているという指摘もあるが、依然、高額なファッションへの支出をしている人も少なくない…



疑問

どんな性格的要因が
被服支出に影響を与える？
(大学生)

先行研究

日本国内における被服消費の縮小とその要因の分析
北浦（2023）

女子大生の洋服購入時における動機と決定要因
三木・小林（2005）

購買行動におけるファッション雑誌の影響要因
熊谷（2003）



日本国内における被服消費の縮小とその要因の分析

北浦（2023）

被服の消費は減少傾向にある。

少子高齢化が下落傾向の要因の1つ。

デジタル化が被服支出低下の要因か？

女子大生の洋服購入時における動機と決定要因

三木・小林（2005）

若い女性は様々な要因によって購買意欲が左右。

洋服購買意識は「ファッションへのこだわり」を
始めとする5因子が抽出。

女子大生はデザイン・ブランド・価格とのバランスを
考慮して購入している。

購買行動におけるファッション雑誌の影響要因 熊谷 (2003)

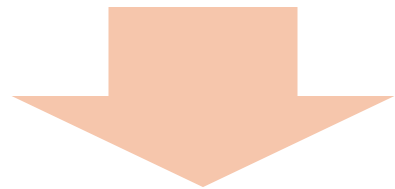
若年女性は、一ヶ月に平均4.1冊のファッション雑誌を読む

金銭感覚を中心とした雑誌ごとに異なるライフスタイルが
うかがえた。

高級感のあるファッションアイテムを扱っている
雑誌読者の支出額は大きい。

研究意義

- ・ 意外とその人の内面や属性に焦点を当てた研究は少ないのでは無いだろうか？
- ・ 大学生全体に焦点を当てた被服支出に関する研究もあまりないのでは？（女学生only...）



**大学生全体の内面も含めた属性による
被服支出の差が分かる**

行動経済学的

疑問（再掲）

どんな性格的要因が
被服支出に影響を与える？
（大学生）



調査方法

アンケートによる
データ収集

集まったデータを
元に考察を行
う

中央値を境にグ
ループに分けて
差を見る

調査方法

行動経済学的な分析をするため
性格・嗜好等を絡めたアンケートを行った

参考アンケート

大阪大学：【くらしの好みと満足度についてのアンケート】

無作為抽出でない・サンプルの少なさなどの問題があるが
この調査から類推できる結果を1つの可能性として提示する

行動経済学的な要因は

- ・ 所得
- ・ ストレス
- ・ リスク許容度

- ・ 幸福度
- ・ 合理性
- ・ 自己肯定感

etc...

リスク許容度の大きさが 被服支出に影響

調査結果①

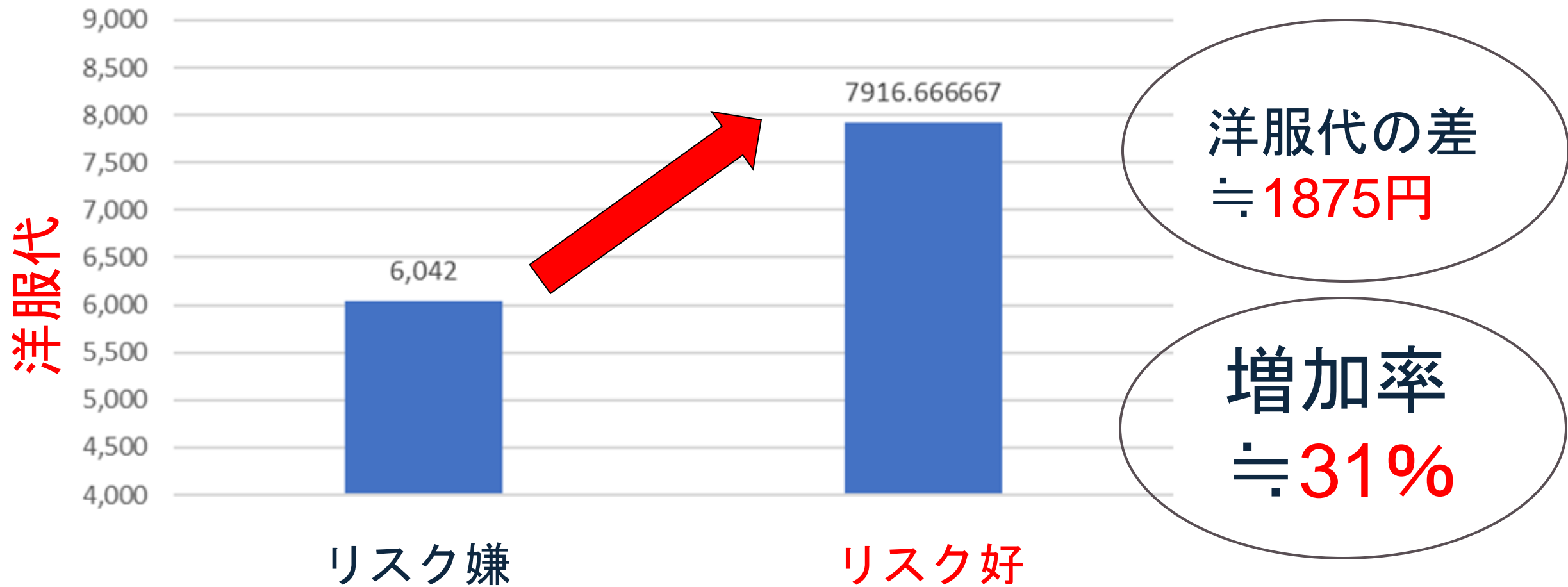
リスク許容度について

【降雨確率〇〇%で、傘を持つか？】
という設問を用意して

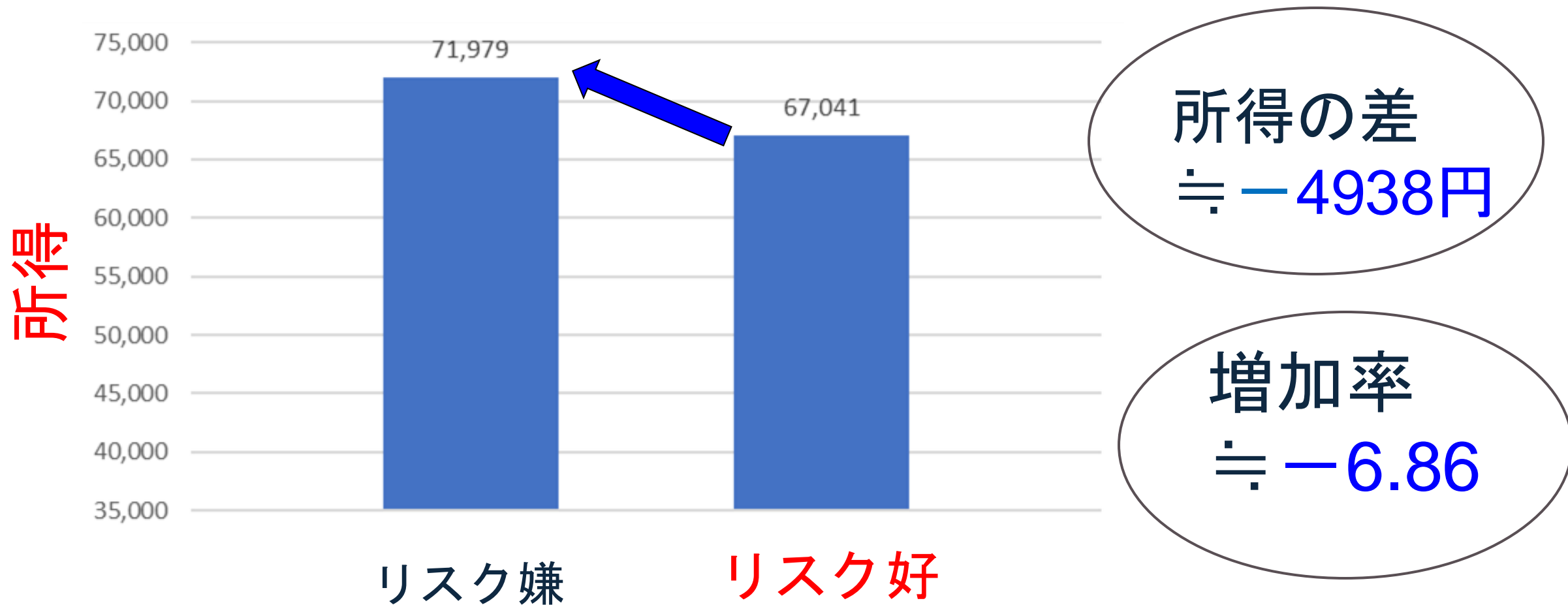
中央値より低いグループは
リスク許容度が低い

中央値より高いグループは
リスク許容度が高いとする

リスク許容度別の平均洋服代

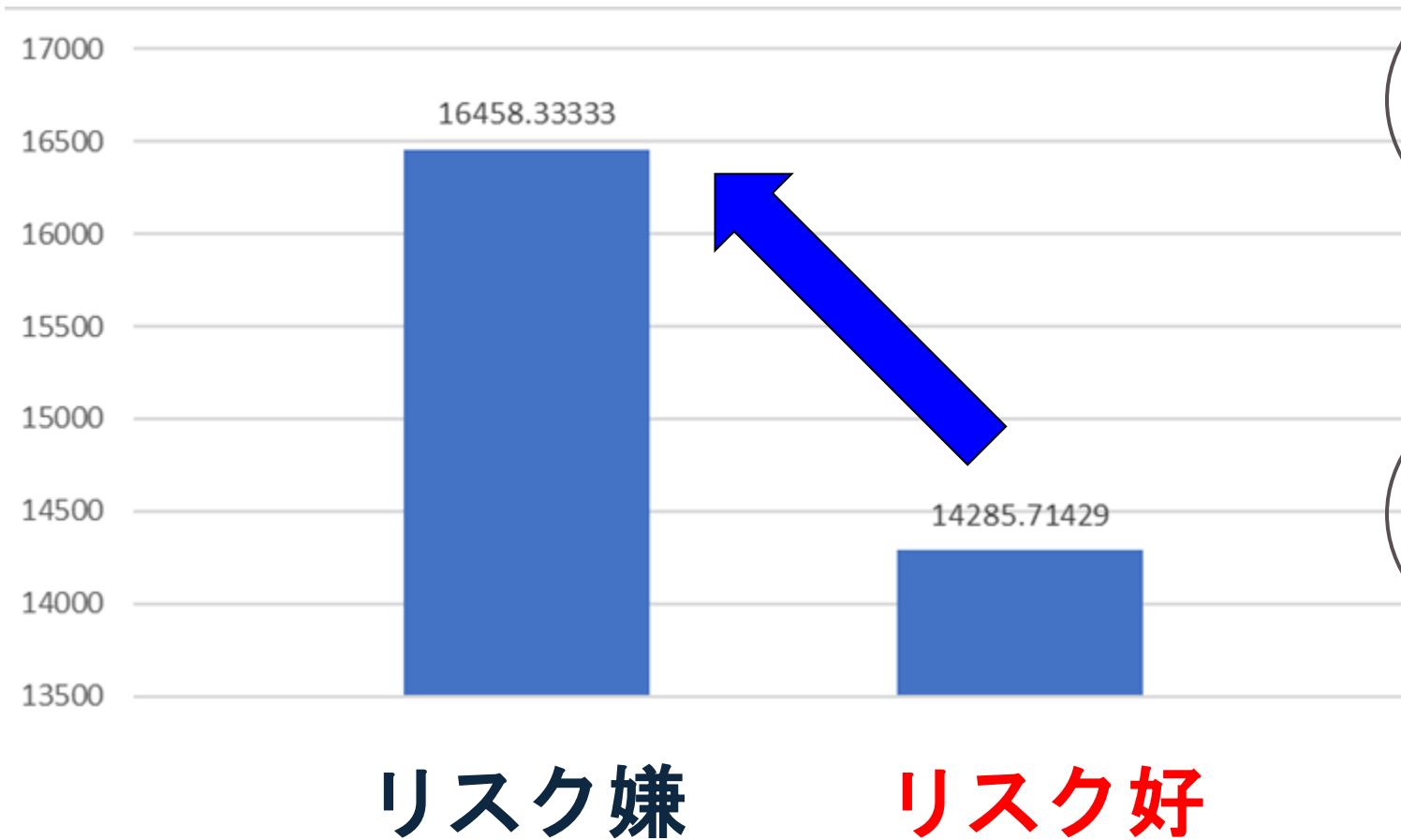


(比較) リスク許容度別の平均所得



(比較) リスク許容度別の平均趣味・娯楽代

趣味・娯楽代

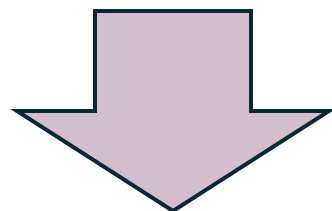


趣味や娯楽代の差
≒ -2172円

増加率
≒ -13.2%

つまり

**リスク許容度が高い人は
被服支出が増えている**



**リスク許容度が高い人に限って
被服支出が多いと言えなくもない？
(強い正の関係?)**

考察

リスク許容度が高い人は
「チャレンジャー」的な要素を持っていると思う。

だからこそ、流行のファッションなどに敏感で
被服支出が多くなっているのではないか？

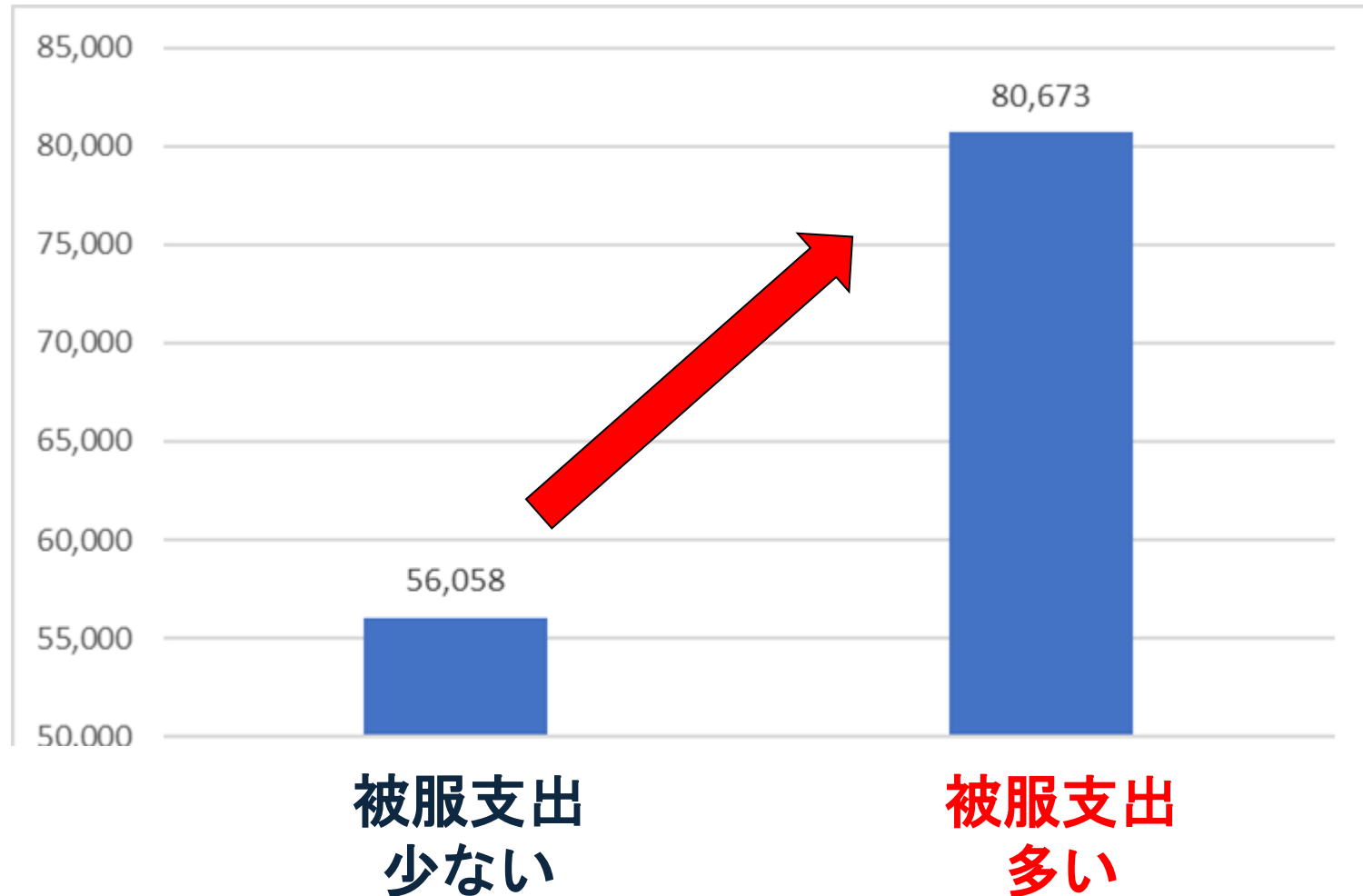
所得の大きさが 被服支出に影響(?)

調査結果②

被服支出別の所得

単純な所得効果？

所得

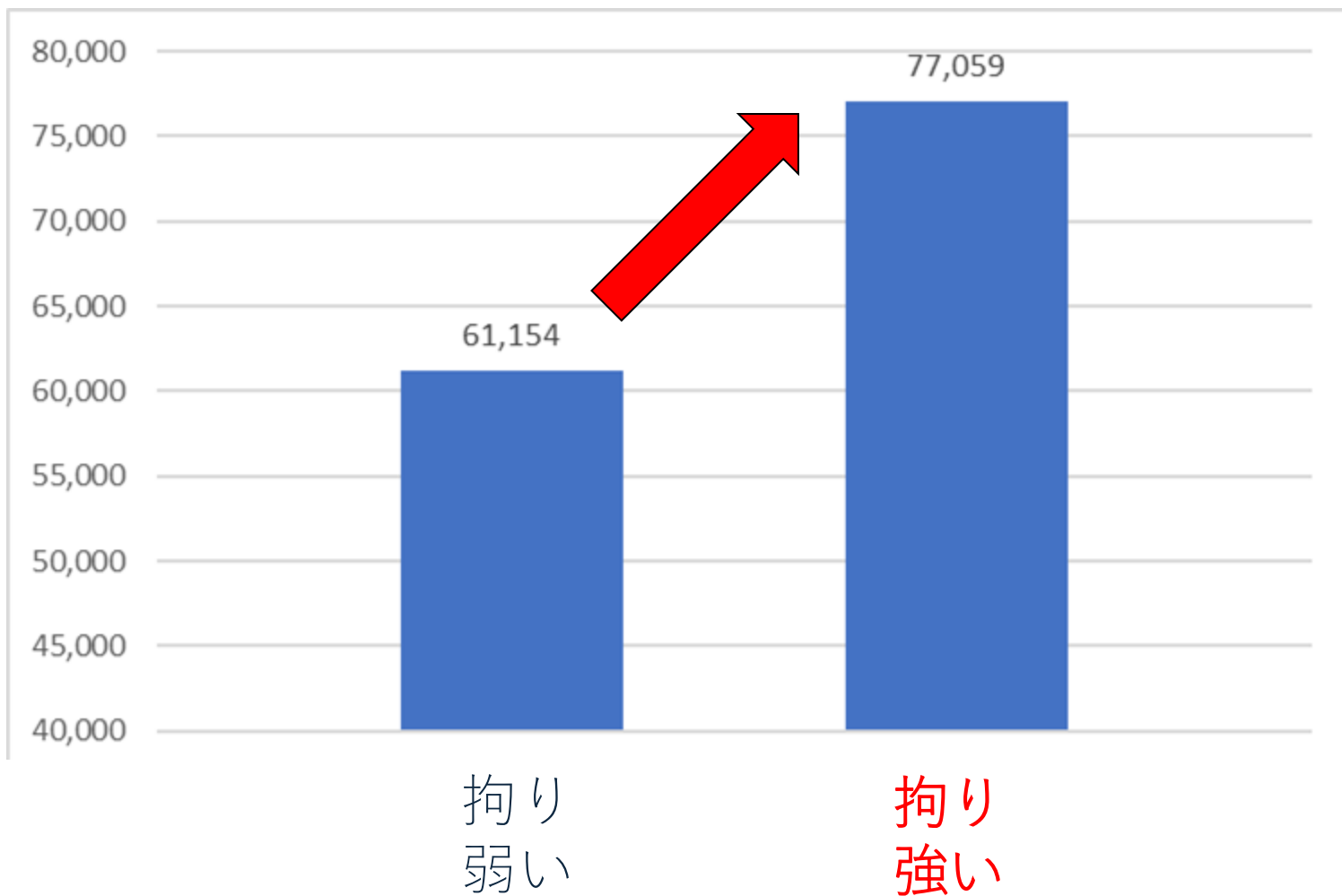


所得差
≒ 24615円

増加率
≒ 43.9%

服への拘り別、所得

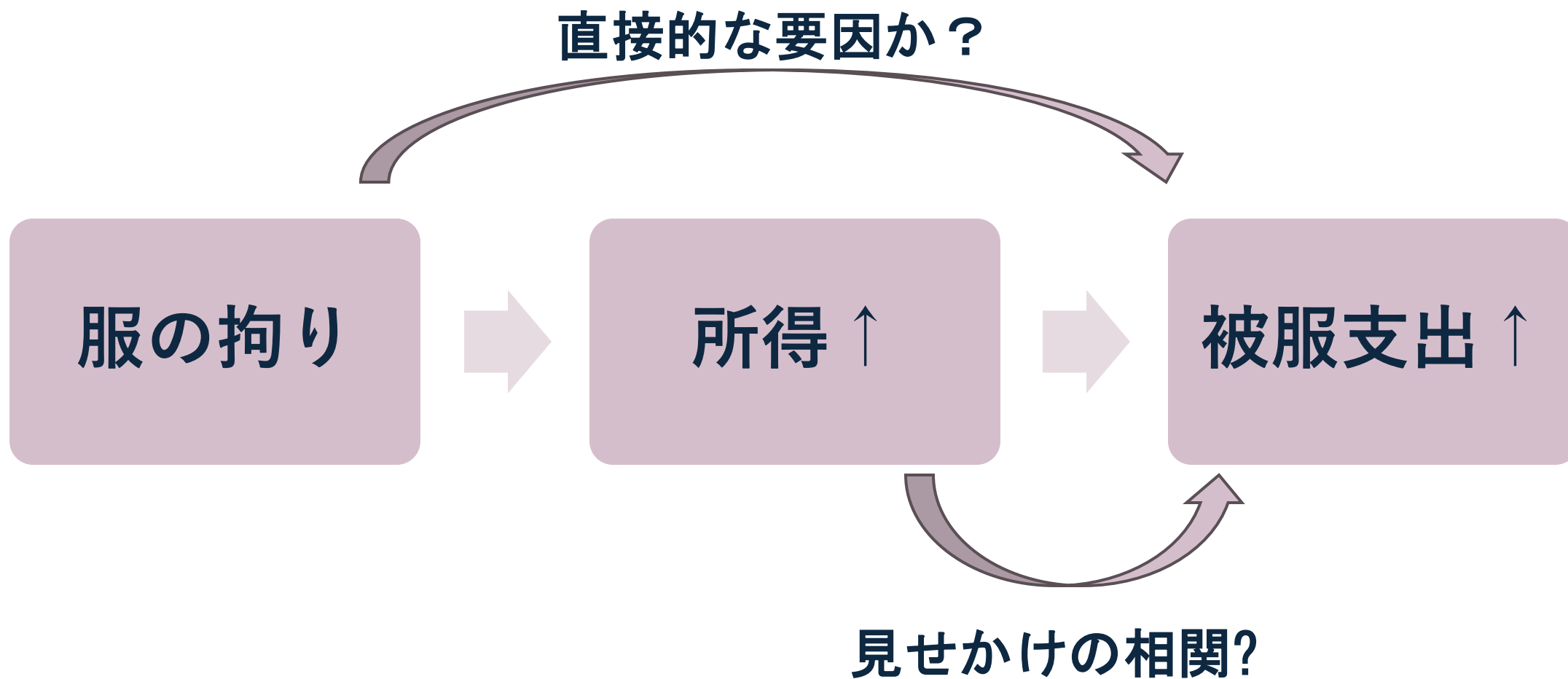
所得



所得格差
≒ 15905円

増加率
≒ 26%

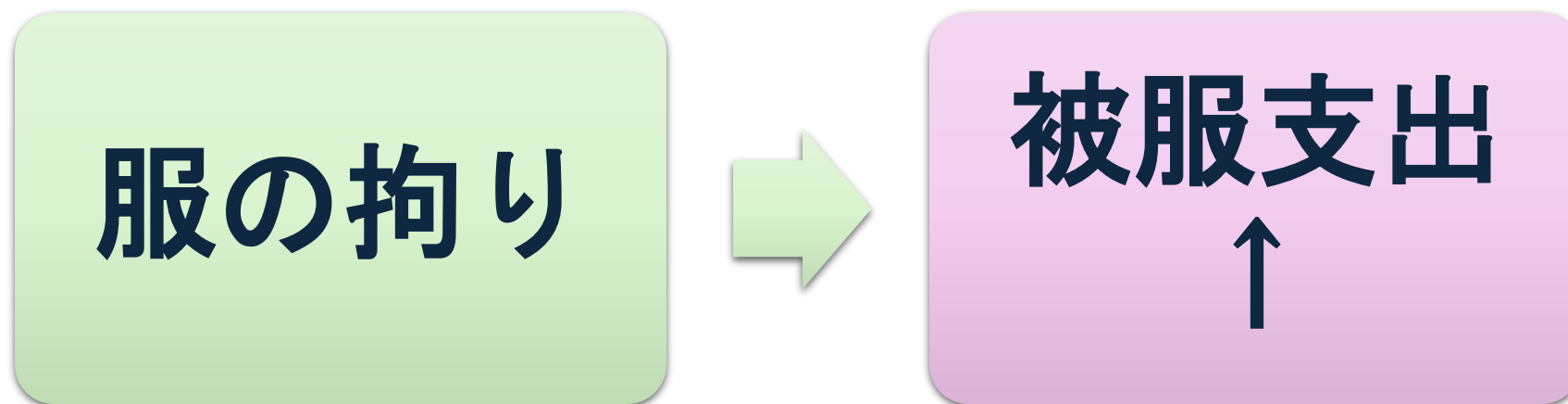
考察（図式化）



考察

- ・ 大学生は収入をある意味調整可能
- ・ 服の拘りが強く、好きな洋服を買うために働いている可能性

このように考えると…



合理性は
被服支出に影響(?)
(**リンダ問題**により判断)

調査結果③

リンダ問題とは？

- ・ リンダは31歳の独身女性。
- ・ 外交的でたいへん聡明である。
- ・ 大学での専攻が哲学だった。
- ・ 学生時代には、社会問題に強い関心を持っていた。
- ・ 反核運動に参加した経験がある。

(問)

リンダは、下記のどちらの可能性が高いですか？

- ① リンダは銀行の窓口係である。**
- ② リンダは銀行の窓口係で、活動家である。**

①銀行の窓口係


②女性活動家

②銀行員で女性活動家

論理的に考えれば①

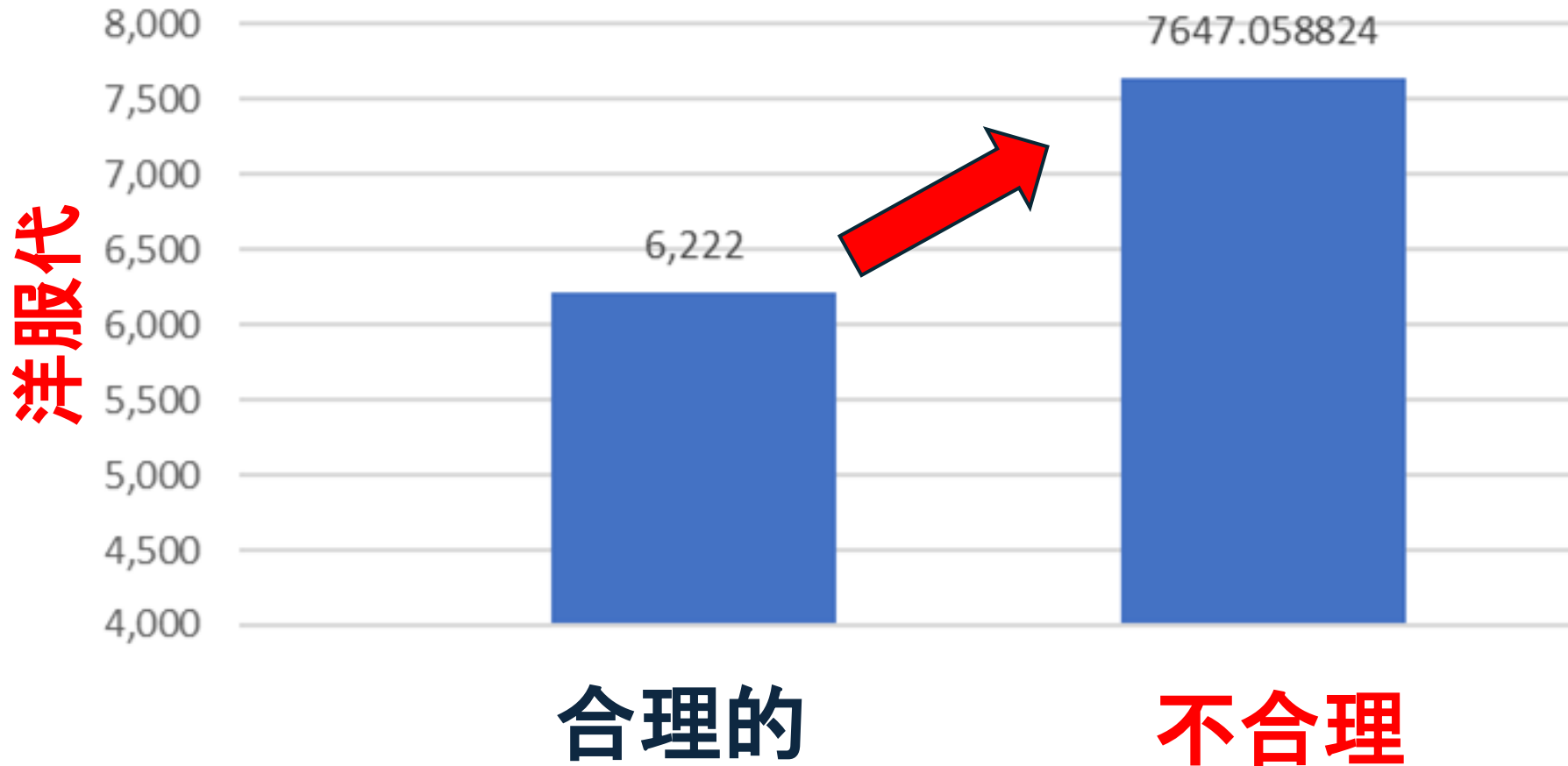


間違えた人は



合理的でない…
直感で答えている…

合理さ別の平均洋服代

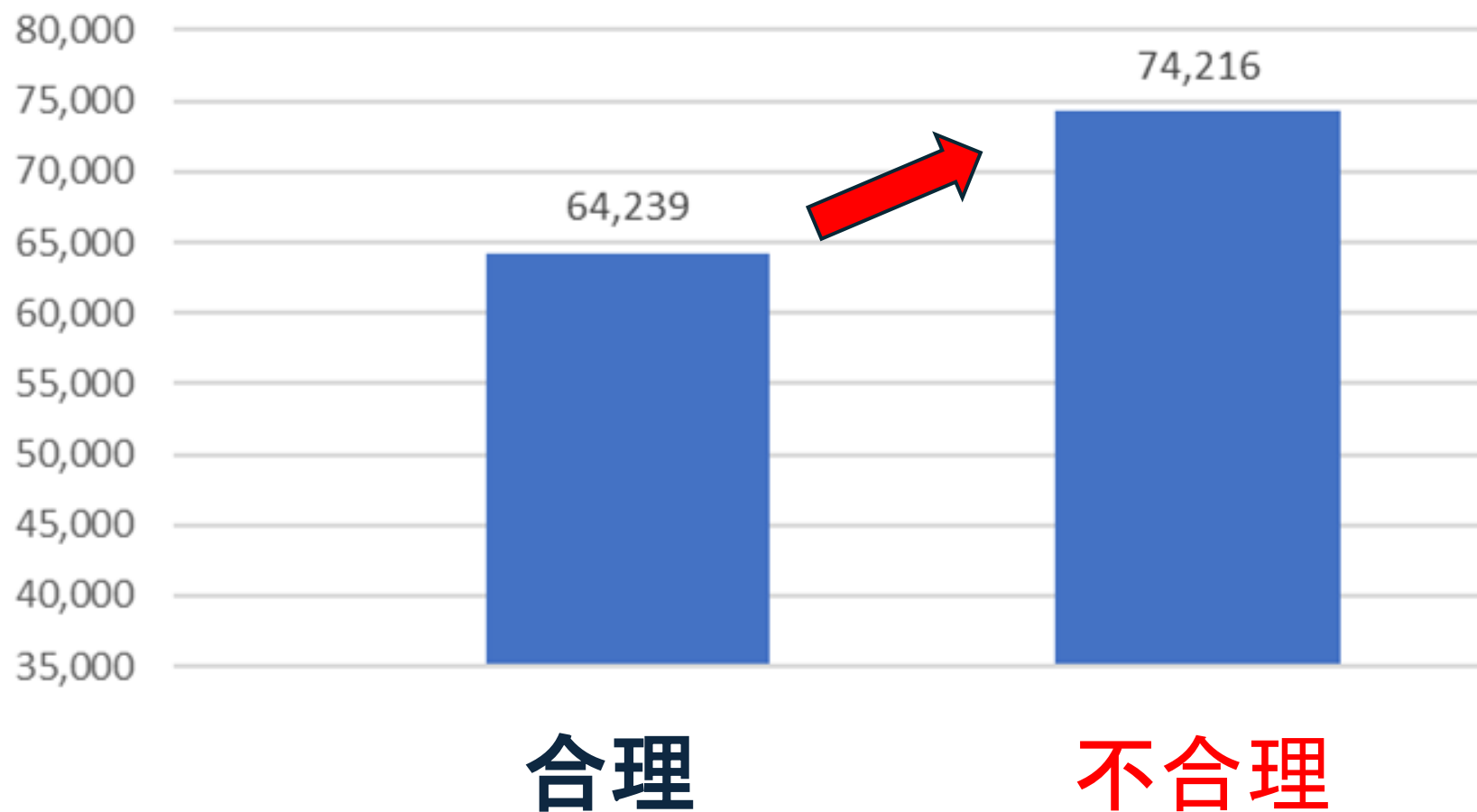


洋服代の差
≒ 1425円

増加率
≒ 22.9%

合理さ別の平均所得

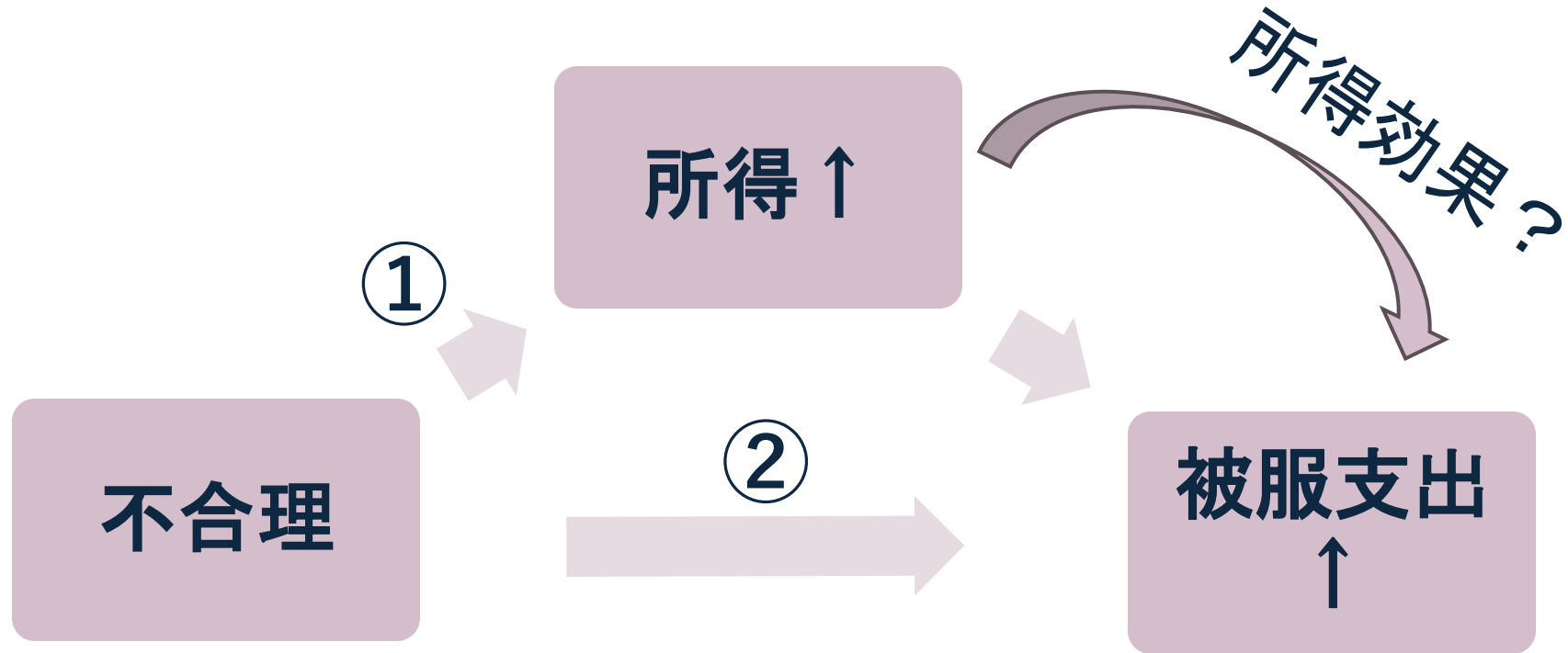
所得



所得差
≒ 9977円

増加率
≒ 15.5%

結果 & 考察 (図式化)



①と②どちらのルートで被服支出
が増えているのか分からない…

考察

合理的ではない人 \equiv 我慢できない人？

と考えれば（例：衝動買いetc…）

不合理



被服支出↑

まとめ



どんな人（大学生）が被服支出が多い？

リスク許容
度が高い人

所得が高い
人(?)

合理的でな
い人(?)

結果一覧

洋服の拘り

不合理

所得 ↑

被服支出 ↑

リスク好

所得効果？

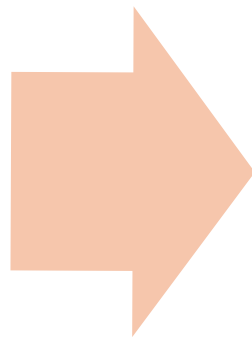
考察①

- ・ 大学生は収入をある意味調整可能
- ・ 服の拘りが強く、好きな洋服を買うために働いている可能性

このように考えると…

本質的に・・・

服の拘り



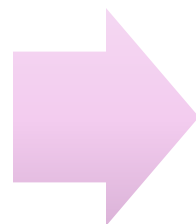
被服支出 ↑

考察②

合理的ではない人 ÷ **我慢できない人**？

と考えれば（例：衝動買いetc…）

不合理



被服支出 ↑

総括（1つの可能性）

洋服の拘り

不合理

リスク好



被服支出 ↑

参考文献

北浦さおり(2023) 日本国内における被服消費の縮小とその要因の分析
https://www.jstage.jst.go.jp/article/citylife/24/0/24_44/_article/-char/ja/

三木幹子・小林茂雄(2005) 女子大生の洋服購入時における動機と決定要因
<https://cir.nii.ac.jp/crid/1390001205557699584>

熊谷伸子 (2003) 購買行動におけるファッション雑誌の影響要因
<https://cir.nii.ac.jp/crid/1390282680535936640>

大竹文雄 (2022) 東京書籍 あなたを変える行動経済学 ペーパーバック

大阪大学 (2024) 暮らしの好みと満足度についてのアンケート
https://www.iser.osaka-u.ac.jp/survey_data/doc/japan/questionnaire/japanese/2024QuestionnaireJAPAN.pdf

ご清聴ありがとうございました
